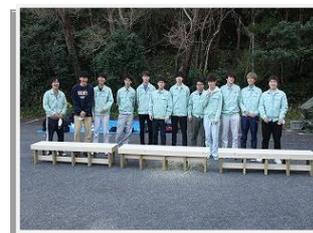


令3年度ふるさと創生NPO活動応援事業報告書

団体名	特定非営利活動法人 さがのせき・彩彩カフェ	
<p>佐賀関地域は人口減少が続き、空き家や空き地も増え、交流のための「居場所」も減り続けている。</p> <p>そこで、佐賀関地域の交流人口を増やし、世代を超え将来にわたって持続可能な地域を築いていくため、令和2年度独自に設置した関崎駐車場横の「森づくり案内所」などを拠点にして、県内大学の学生を中心に「地域体験活動」を実施した。</p> <p>8月には、佐賀関「古宮海岸ビーチクリーニング」を実施、流木アートの材料となる流木の収集も実施した。</p> <p>また、8月から9月にかけて、これまでに植樹してきた河津桜周辺の草刈りを行った。</p> <p>10月には、「佐賀関旧市街地の歴史と半島探索」をテーマに旧市街地の歴史を学んだ。明治維新で活躍した坂本竜馬の足跡や旧市街地の歴史の変遷を学び、また、海に伸びる線路（白ヶ浜と黒が浜の間にある）まで散策をしながら半島の自然を満喫した。</p> <p>11月には「木を使ったワークショップ」をテーマとして気象観測棟づくりに挑戦した。また、長椅子を製作し設置、すでに植栽している河津桜の植栽状況を観察した。</p> <p>1月には「木を使ったワークショップパートⅡ」として気象観測棟の仕上げを行った。</p> <p>2月は「河津桜の植樹」をテーマに、関崎駐車場周辺で河津桜の植樹体験をおこなった。佐賀関半島の海や自然林のなかでワークショップを開催し、県内大学の学生と地域内外の参加者が「地域体験活動」とおしての交流もでき、また、小さな風景を刻むことができた。</p> <p>今回の「地域体験活動」は、県内大学の学生を中心に、延べ124名の方々が参加し実施することが出来た。</p> <p>学生の記憶の中には青春の思い出として生き続け、将来再び佐賀関を訪れる誘因となると期待している。</p> <p>また、様々な人と人との出会いも生まれ、地域外との交流人口の増加も見込まれる。これらのことは将来の佐賀関半島の自然環境の維持・持続につながるものであり、また、持続可能な地域づくりのきっかけにもなると確信している。</p>		



当法人はこれまで「さかのせきローカルデザイン会議」（構成メンバー：NPO 法人さかのせき・彩彩カフェ、日本文理大学）の事業構想「SDGs 2030+佐賀関半島（関崎）自然林環境保全活動事業企画書」を軸に、佐賀関地域を持続可能な地域としていくために様々な活動の実績がある。

今後は、今回製作した気象観測棟や長椅子、植樹した河津桜などを活用し、必要な経費は賛助会費等で補いながらかつ活動を継続していきたい。

また、今回の活動による交流をきっかけとし、地元の建築士会や自治会の協力を得ながら、これまで活動に参加いただいた、大分短大／園芸科、日本文理大／建築学科、APU+日鉱社員／流木アートなど、様々な分野の団体と協働して、「地域体験活動」などを継続していきたい。

